

令和7年度 第3回東京都相談支援従事者研修検討会 議事録【要旨】

日時 令和7年12月15日（月曜日） 14時から16時まで

出席者 吉川委員、稲垣委員、神作委員、芝委員、高江洲委員、辻委員、蛭川委員、藤田委員
古橋委員、横田委員

欠席者 修理委員

傍聴 6名

事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長 他4名

1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 次第 資料1 令和7年度サービス管理責任者等指導者養成研修会（国研修）受講報告 資料2 検討チーム報告書 資料3 東京都相談支援従事者研修検討会設置要綱 参考資料 専門コース別研修標準カリキュラム（国要綱） ・本日の検討会は、記録のため速記の方が参加をし、録音をすること、傍聴者がいることについてもご了解いただきたい。 ・資料の公開について、検討会設置要綱資料の2の7の規定により、議事録及び資料は公開することになっているが、本日の出席委員の議決により、非公開ということもできる。公開の場合、東京都心身障害者福祉センターのホームページで掲載するがよろしいか。
各委員	（了承）

2 検討事項

（1）令和7年度サービス管理責任者等指導者養成研修会（国研修）専門コース別研修部分受講報告

吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援コースを受講された辻委員に報告をお願いしたい。 ・なお、障害児支援コースを受講された林田さんは本日出席することが難しいため、報告書をご覧いただきたい。
辻委員	<ul style="list-style-type: none"> ・9月9日、オンラインにて参加した。 ・まず伝達されたことについて。令和5年度から3年間の研修実施自治体の推移の紹介や利用者と支援者という関係性において、どうしてもしてあげたというところに陥りがちであるとか、意思決定を阻む要素の例の話があった。 ・本人の生命にかかわること等、すぐ決断を下さないと本人の不利益が大きというようなレスキューモデル、または、ある程度時間の余裕がある中で本人に決断を促していくエンパワメントモデルという二つがあり、そのときの本人の状況に応じて支援していくことが望ましいという話しの中では、パーソナルコミュニケーション辞典づくりというのをワークの中で行うこともあった。 ・2番目の意見交換等で得た情報について。 ・北海道の方、兵庫県の方との3人グループでワークを行った。まず自分の人生

	<p>の中で周囲に反対をされたが押し切って自分自身で意思決定をしたことを振り返り、三者で話しあった後に、そこに後悔があるかと話を振られた。自身のグループも周りのグループも自分で意思決定したことに対しては、おおむね後悔が少ない。ただ、逆に、自分の思いではなく、親や友人から言われてやったことに対しては、少し後悔が残るということがあった。自身もそうだけれども、利用者のほうが同様のことは数多くあるのではないかという促しがあった。また、自身が支援者として関わる中で、利用者の意思にそぐわないほうに支援を進めてしまった経験はあるかと、利用者支援に視点を促す場面があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「映像で学ぶ意思決定支援」では、高次脳機能障害や失語症の方についての映像で、職員の呼びかけに応じてご本人が行動する、例えば何か好きなものを選んでくださいと言われてたら、何かを取るといった映像を見る。それに対して客観的な事実をまず書き、その後、ではなぜそれを取ったのか推測する。たまたま身近にあったから手を伸ばしたのではないかと、色など興味関心を引くものがあったから、たまたま取ったのではないかなど。それらを見て、置き方を変えてみようかとか、おそらくいろんな試行錯誤があって、本人が本当に好きなものを選びやすくなる、といったことを先ほどのパーソナルコミュニケーション辞典づくりを通して行った。 ・最後に、伝達されたことと研修と関連づけて考えたことについて。今回の講義や演習で使用されたツールを用いることで、グループワークの内容や、パーソナルコミュニケーション辞典づくりなど、東京都でも似たような研修が実現できるのではないかと感じた。ただ、講義部分の講師の選定等、実際に実施する際には検討が必要かと感じた。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・辻委員の報告について、質問等ないか。
各委員	(質問なし)

(2) 各検討チームからの報告

吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・各チームのリーダーからの報告ということで、今取り組んでいることの内容、今後の予定、ほかのチームから意見が欲しいこと、この場で検討が必要なことについて、5分程度でご報告をいただきたい。 ・まず、人材育成チームの稲垣副委員長からお願いします。
稲垣副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・2回目以降の取組内容と検討事項について報告する。 ・まず、取組事項としては、初任者研修の実習説明会を9月24日に実施した。実習対応者のスキルアップを目指し、東京都の目指す専門員像と研修全体像のつながりについて説明した。演指研やSVの研修の受講促進も継続した。 ・今年度から新たな取組として、中央区と東大和市の2自治体から実習対応や受入れ準備・資料について発表していただいた。自身も所属区である中央区の取組を伝えられる良い機会となり、途中退室者が減少するなどグループワーク以上の成果が得られた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・F T 育成については試行錯誤しながら進めている。初任者研修ファシリテーター説明会で「ファシリテーションの魅力」や「ファシリテーションとは」など基本事項を伝えた。検証結果は研修後のアンケート等で確認する予定である。 ・同時に初任者研修受講者には、5日目の実習に臨む心構えとして「実習は答えを得る場ではなく、相談支援専門員として大切な考え方や気づきを得る場」と説明した。今後、地域実習が行われるので、こちらでも検証していく。 ・研修スライドの変更については、メインファシリテーターから変更・追加したスライドの提出協力を求め、組み入れたいものがあったので、次年度のスライドに取り入れ、検証していきたい。 ・次に、課題と4回目までの取組について。現任・初任者研修ファシリテーターアンケート結果や感想を確認し、ファシリテーションスキル向上のためのスライド追加の成果を検証していきたい。 ・チームで今後検討すべき内容として、ファシリテーターの目指すレベルの再確認が必要と思っている。多くのファシリテーターの協力が必要な中、どこまで高いレベルを求めるのか、レベルのすり合わせを行い、経験豊富なファシリテーターのスキル向上に向けて取り組みを図っていきたい。 ・ファシリテーターとしての経験はあるが、現任研修または初任者研修には初参加の方へのフォロー体制の必要性も感じている。ファシリテーターの目指すレベルやスキル向上のための効果的な取組について、他チームからの意見をいただきたい。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・チームメンバーから補足等なければ、意見交換の時間としたいが、稲垣副委員長、効果的というイメージはどのようなものか。
稲垣副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・演習指導者養成研修について、初任コースか現任コースか、いずれか片方の研修のみ受講し、もう片方は未受講のまま初めてファシリテーターとして参加する方がいる。今後、両方の研修を受講できる仕組みができないか。また、経験の長いファシリテーターのスキル向上も促進する必要があるが、これは永遠の課題かと思うが、ご意見あればお願いしたい。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・改めて、何のためにワークを行うのか明確にする必要があるのではないかと。演習にはワークが組み込まれているが、初めてファシリテーターを担当する方は、内容を周知されても目的が分かりにくい場合がある。経験者も、慣れによって目的を忘れることがないとは言えない。初めての方向けとしつつ、実際は経験者にも改めて目的を伝えるため、各ワークの目的を記載した別紙を用意することで、参加者のスキルをより活用してもらえないかと思う。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・目的の改めての確認はとても大切と思う。 ・ほかになければ、サポーターチーム蛭川副委員長からご報告をお願いしたい。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の検討会以降、ファシリテーターアンケートの内容とサポーター人材の把握について検討した。ファシリテーターアンケートの目的は2点で、1つ目はサポーター人材の把握のため一緒に参加できそうなサポーターや推薦したい利

	<p>用者の有無を確認すること。2つ目は、演習ノートやQ&A作成の必要性を検討するため、サポーター導入によるファシリテーターの不安要素を把握すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポーター人材の把握については、東京都障害者ピアサポート研修修了者への声かけを進めるため、ピアサポート研修検討会の座長である早稲田大学の岩崎香先生にも相談し、了承を得ている。この研修は精神障害領域の方が多いため、まずファシリテーターアンケートを実施し、過去の協力団体も再確認しつつ、状況やバランスを見て声かけを進めたい。 ・今後の予定としては、平成30年度にサポーターが参加した際の演習ノートを参考にし、現行の演習ノートと突き合わせを行い、サポーターへの質問事項等を検討し、次年度に向けてサポーターやファシリテーター向けの説明資料を作成したり、令和9年度から使用するの演習ノートの内容を検討していきたい。 ・意見をいただきたい事は2点。1つ目は、サポーター導入日について、前回の検討会で初任者研修3日目ということで異論はなかったが、今年度の研修を行ってみて、やはり3日目で良いか。2つ目は、ファシリテーターアンケートの設問内容について、先ほどお伝えした2問で良いか、追加すべき事項があるか意見をいただきたい。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・意見が欲しいという2点についていかがか。
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、3日目の導入に賛成。特に午後のアセスメントのあたりにご本人が会場やグループにいることに大きな意味があると思う。サポーターの負担を考慮し、1日または半日とするかは検討が必要かと思う。 ・アンケートについては、冒頭の二つで問題ないと思うが、サポーター導入を行う場合、ファシリテーター説明会でサポーターの役割や配慮事項をしっかりと説明する必要があると思う。先ほどの人材育成チームからの話にあった、ベテランファシリテーターも含めた、ファシリテーションについての説明を厚くすることと併せて、ファシリテーター説明会の充実を図れると良いのではないかと思う。
稲垣副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・3日目の導入には賛成。サポータータイムの動画は心に直接響くと感じており、そのような内容を直接聞ける機会になるのであれば、とても良いと思う。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーターとの関わり方が先ほどの意思決定支援にも関係しており、どのように関わるかのモデルの一つになると思うので、事前の打合せなどはとても重要と改めて感じた。 ・次に、内容整理チーム高江洲副委員長お願いしたい。
高江洲副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・2回目以降の取組として4点ある。 ・1つ目は「相談支援専門員の役割紹介」として、行政向けの資料を作成し初任者研修の実習説明会等で使用した。 ・前回検討会で効果測定の話も出たが、チームとしては市区町村からのフィードバックは困難なので、それよりも検討会の委員が地域で使用した結果を報告し

	<p>ていただく方法はどうかという意見が出た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の検討会に先駆けて、本日欠席の修理委員からの実際に資料を使用した事例を報告したい。9月28日杉並区役所で開催されたハローワーク主催の福祉の就職説明会のお仕事セミナーで使用した。グループホーム、就Bなどの事業所等がそれぞれの仕事を紹介する中で、修理委員は自己紹介を兼ねて相談支援専門員の役割紹介スライドを用いて説明。可視化された情報が得られて参加者にも伝わりやすかったとの意見が出たとのこと。 ・また、足立区障害援護課からも次のご意見をいただいた。 伝わってきたメッセージ、分かったこと、気づいたこととして、自立支援協議会や地域課題に挙げる流れが可視化されており、相談支援専門員の役割を理解する上でとてもよい機会と感じたとか、相談支援専門員の存在を地域の仕組みの中で、どう生かすかという視点が盛り込まれてよかった。また、改善案として、ターゲットをもう少し明確化できると良いのではないかと、情報量のバランスの検討が必要ではないか、表現等について「希望を実現しましょう」は、やや強いため、「実現に向けて一緒に考えていきましょう」というメッセージはどうかとご意見をいただいた。 ・補助教材については、演習指導者養成研修受講者向け動画の再生数が12月2日時点で49回。今後の継続については、ファシリテーターおよび初任者研修受講者のアンケート結果をもとに検討することとした。 ・他の補助教材の必要性については、初任者研修の内容等の変更に応じて新たな意見があれば検討することとした。 ・地域調べの資料については、これまで初任者研修から主任研修まで一つのシートを活用していたが、今年度の主任研修チームが新たな様式を作成したため、今年度は初任者研修・現任研修とは異なるものを使用することとした。資料2別紙2を参照いただきたい。 ・共通事例については、昨年度内容整理チームが作成したものを継続し、令和8年度現任研修チームに演習ノートの内容が合わせていただくように内容の検討を依頼した。 ・課題と第4回までの取組の予定については、地域調べの資料については、主任研修チームが作成した以外の初任者研修・現任研修用資料を新たに作成するかどうか検討する予定。 ・他のチームから意見をいただきたいこととしては、相談支援専門員の役割紹介資料について、研修で配布するかどうか、また配布する際は内容の伝え方をどうすればよいか意見をいただきたい。 ・主任研修の地域調べが資料に含まれているため、内容確認および意見を求めることとした。また、地域調べについても意見いただきたい。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・補足等なければ、地域調べ、相談支援専門員役割紹介の取り扱いについて意見をお願いしたい。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補足として、前回の検討会の際に、相談支援専門員役割紹介については、研修資料として配布したほういいのではないかという意見をいただいたかと思うが、その場合、目指す姿と並べると、受け取り手がそもそも違う。どのように配布すると混乱がないか等ご意見いただきたいと、内容整理チームで話していたがいかがか。
古橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談支援専門員の役割紹介資料の配布については、研修の中で配布することは有効だと思う。研修の連携のコマで、自分自身で語る相談支援専門員と期待される相談支援専門員という視点で見た場合に、どのように見られているか、期待されているかを説明する資料として説明を加えつつ配布することで、理解が広がると思った。一方で、情報量が増えることで混乱が生じる可能性については多少懸念が残る。
芝委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談支援専門員役割紹介については、配布のタイミングは未定としても、この資料が自治体等に周知されていることを知っておいてもらう必要はある。初任者研修や現任研修で地域課題等を扱う際に配布するのも良いと思う。混乱が生じるようであれば、まずはファシリテーター説明会で配布しファシリテーターが意識するという方法もあると思う。 ・ ただ、全員に周知するには研修のタイミングかと思う。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役割紹介資料の配布については、行政向けに作成したもののなので、研修資料の「目指す姿」と一緒に配布するのは方向性が異なるということかと思うが、修理委員が杉並区で説明に使用した事例や、足立区の行政職員に説明して意見を得た事例を踏まえ、自分たちの役割を説明する際に迷う人が少なくないのではないかと思うので、説明方法の参考資料にするのも一つの方法かと思う。 ・ 市町村へも役割紹介を配布してもらいたいし、配布していることを意識することで、相談支援専門員自身が自分たちの役割を説明できるようになるので、参考にしてもらうための資料として配布できると良いと思った。 ・ 主任チーム作成の資料については、従来の資料のどこに着目して変更したのか伺いたい。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで一貫して使用してきた資料の項目には、主任相談支援専門員として把握する必要性が低い項目が多数含まれていたもので、主任研修向けのカリキュラムに合わせて、主任相談支援専門員として地域の状況について何を知っておくべきかを精査した結果、このような形式になった。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資源調べの書式を作成した際は、初任から見て、将来ここまで自分たちは把握することが求められているということを見通せるように1枚にし、研修ごとに必要な部分以外は網かけにして、主任はすべて記載するようにしていた。今回は、主任はその情報は不要なので、まとめたものが今回のものということか。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての項目が必要ないという意味ではない。特に主任として扱う制度上の件数などを記載する部分については、国研修で使用していた地域調べシートをベースにしているが、今回見直した結果、主任相談支援専門員として把握すべき情

	<p>報が従来とは異なると考え、項目の変更をした。元々の書式に、少し変更するという話だったが、実際に新しい書式を作成した結果、今回提示した形となった。</p>
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> この書式に関しては、むしろこのほうが分かりやすく、主任に着目してほしい内容が詰まっていると感じたが、これを初任者、現任者にも提示するのはどうしていくのか。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> 今回に関しては、この資料の取り扱いについて議論する時間がなかったので、主任としてはこれを使用していくが、これまでのように、3つの研修に使用できるように1枚にまとめるかは別途検討が必要と考えている。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の主任研修ではこの資料を使用するが、1枚にまとめるかは内容整理チームで検討するということか。
高江洲副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 1枚にまとめるかはまだ決まっていない。今後どうするのが良いか、ご意見いただきたい。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> このままの状態ですと、到底1枚には収められない。そのため、項目を削るとか、主任は別の様式にするとか、選択をしていく必要がある。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 1枚にまとめることにこだわりはない。 <p>重要なのは、初任者研修・現任研修・主任研修でそれぞれ求められている内容を見通せることであり、初任者の段階で将来的に必要な事項を意識できるようにすることが目的なので、見せ方については今後検討が必要と思うし、枚数や項目を増やせばよいとも思わないので、どこで検討するかは継続の形か。</p>
高江洲副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 内容整理チームで検討するが、全体でご意見があればお聞きしたい。
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> 昨年、横田委員とともに主任研修の受講者として実際に課題を作成した結果、時代の変化もあり、書きにくい部分や追加が必要な情報があったと感じた。 新たな書式は、主な機能や理由など、例えば障害者計画一つとっても、存在を知っているだけでなく、どのように把握しているかが主任には必要だという観点から内容を大きく見直した。 ただ、これをそのまま主任研修の受講者に配布した場合、記入しない部分が多くなる可能性があると思う。 これまでの書式も、例えば主任の人数の記入欄がないなど不足している部分はあるため検討は必要と思うが、1枚の表になっていることで、初任者・現任者が見通しをたてるという意味では必要であるし、その後に主任になるからにはもう少し深く見通してほしいというところから、この書式ができたと思う。そのため、今年度は今回配布したものを主任研修で使用し、受講者の回答状況を見て、設問が難しすぎる場合なども含めて精査していく、現行の資源調べの書式についても大きく変更しないとしても見直しをしていくというのはいかがでしょうか。
稲垣副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 現任チームでは、事前課題1の用紙について変更を予定している。これまで基本情報・実践情報・地域の状況・地域資源を一体で扱っていたが、地域資源の

	<p>部分のみを1枚に独立させる案が出ている。</p> <p>主任になるためには、見通しを把握することは、現任研修において特に大事なので、この観点を新しい様式に取り入れたいと考えている。</p> <p>・ただし、現任チームはすでに準備を進めており、今後、誰がどのように検討を進め、いつまでに完成・決定するのか、その見通しを把握したい。また、新しい様式において現任者にどこまでの内容を求める想定か、イメージがあれば教えてほしい。</p>
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・現在研修の様式では、主任研修で取り扱う内容が網かけになっている。新しく採用した課題のどの部分を代わりに載せたらいいかという案だけでもあれば参考になると思う。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今すぐに回答は難しい。主任研チームでも精査し回答したい。
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの書式と主任の新しい様式を見比べると、これまでの書式にあったが、新しい様式にはない部分がある。結局、主任でも現任でも使わない部分もあるので、主任への見通しにはならないかもしれないと、どうすべきか悩む。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これについては、今回の主任研では使用するが、今後どうするかについては再検討したい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は資料の締切りの関係から、主任研修については今回の様式を使用することとしたい。 ・これまで各研修のつながりを踏まえて作成してきた経緯があるため、初任者研修・現任研修の様式も含めて今後どのように整理するかということや、現在の様式には新しいサービスが未反映であったり、不必要な項目もあるのではないかと、これらは内容整理チームで検討していきたい。 ・稲垣副委員長から、現任研修資料に間に合わないのではないかとのご意見があったが、間に合わない場合は次年度の初任者研修から反映させるなど、内容整理チームの進捗に応じて各研修へ共有していけると良いと思うが、高江洲副委員長よろしいか。
高江洲副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。現任研修チームでは、現状のまま進めていただければと思う。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・よろしくお願ひしたい。 ・続いて、研修ごとの検討チームの進捗状況を事務局からお願ひしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、現任研修については、8月21日に演習を終了し、9月11日にチームの振り返りを実施した。今年度は研修3日目の実施方法に関してメインファシリテーターから意見があり、また資料作成に十分な時間を確保するため、令和8年度チームの始動を早めることとした。昨年度より約2か月早い10月16日に初回打合せを実施し、新メンバーとの顔合わせ、スケジュール確認、役割分担、講義動画の講師選定等を行った。 ・次に、初任者研修については、9月22日・24日に会場にてファシリテーター説明会を実施し、初任チームの皆様に講師として登壇いただいた。今年度は

	<p>「5ピクチャーズ」の演習の進め方を変更したことで進行が円滑になったという意見がある一方、書式内の文言の変更等により分かりにくい部分が生じ、次年度への課題となっている。演習は10月7日に開始し、2回の地域実習を経て1月30日まで継続する予定である。今年度は受講決定後の辞退や継続困難な方が多く、演習進行やグループ再編に苦慮している。2月下旬にはチームの振り返りを実施する予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門コース別研修1については、今年度初めての取組として、サビ管検討委員3名と相談支援の検討委員である稲垣副委員長とで、6時間分の動画プログラムの内容の検討や講師の選定等を行った。稲垣副委員長には複数の講義資料作成や講師としての登壇など、多大な協力をいただいた。ただ、残念なことに申込者は定員400名に対し200名を下回る状況だった。講義動画は2月16日から23日に配信予定であり、サビ管側でも同内容をほぼ同時期に配信する予定である。 ・専門コース別研修2については、9月4日に昨年度同様スーパービジョンをテーマとして実施し、29名が修了した。受講者の半数は実習対応の経験がなく、今年度初めて担当する方も含まれていた。昨年度課題となった、事例のサービス等利用計画書の持参については、持参困難な場合は事前相談を受け、共通事例を用いることで円滑に実施できた。 ・主任研修については、11月末までに講師に当日の資料を作成していただいた。今年度は東京都版シラバスの作成から取り組んだため、チーム3名に大きな負担をおかけした。受講決定は12月24日に行い、研修は2月17日から開始予定である。 ・演習指導者養成研修については、現任研修終了後に現任コースの3日目を実施し終了した。初任コースについては、初任者研修の演習終了後に最終日の3日目を行い、研修を終了する予定。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・補足、意見はあるか。
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修については、開催時期がインフルエンザ流行期と重なるため、途中で継続困難となる受講者が多く発生している。これに対応するため、東京都として日程振替を行い、オンライン日程へ多数が移動して継続している状況である。この対応は賛成だが、元の日程で人数が減少した場合のグループワークの時間配分や、振替先であるオンライン日程のグループ人数の増加への対応について、今後共通認識を持つ必要があると感じている。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・おっしゃるとおり。 ・事務局から特になければ、ほかに意見はないか。 ・いただいた意見について、今日解決できなければ引き続きの検討内容としていきたい。

(3) 令和8年度相談支援従事者研修について

吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、令和8年度相談支援従事者研修について、3点検討事項がある。事務局から説明をお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まず1点目として、専門コース別研修について意見をいただきたい ・本研修は、毎年度、集合型1日の研修と、オンデマンド配信の研修の2本を専門コース別研修として実施している。 ・令和7年度は、集合型研修のテーマをスーパービジョンとし、オンデマンド配信でのテーマを障害児支援として実施した。 ・次年度の研修のテーマについて、事務局としては、今年度オンデマンド配信で実施した障害児支援について、相当の時間をかけて作り込んだ経緯があるため、可能であれば次年度も同内容で継続したいと考えているがどうか。併せて、集合型の研修のテーマも含め、皆様のご意見をいただきたい。 ・参考資料を配布しているが、これは国の示す内容で、これ以外のものを東京都独自で行うこともできる。
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> ・専門コース別研修のスーパービジョンを担当した。 ・参加者が少なく残念ではあったが、時期的な問題もあったかもしれない。 ・ファシリテーターのスキルを上げることや、地域実習の充実を図ることをテーマにしていることから、スーパービジョンの研修を受ける機会を確保する必要がある。次年度もぜひスーパービジョンの研修は実施していただきたい。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私も神作委員と同じ意見。昨年度と今年度はいずれも、どちらかという初任研向けの内容にしていたため、現任研のSVはどうするかという課題もあるので、3年は同じテーマで実施したほうが良いのではないかと思う。
稲垣副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、初めてサビ管側と共同で「障害児支援」をテーマに研修を作成したが、作業は大変だった。 ・サビ管検討委員から3名と内容を検討したが、例えば「児童」という用語一つを取っても、相談支援側では18歳未満を指すのに対し、サビ管側では未就学児を指すなど、基本的な考え方の違いがあり、すり合わせに多くの時間を要した。 ・打合せを複数回行い、時には21時30分まで調整を重ね、ようやく完成に至った。 ・視点が異なるからこそ、繰り返し見ることも必要であるし、内容的にも、今後3年間は変更せずに使用できると考えているため、次年度以降も同じ動画を継続して活用いただきたい。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・それでは、2本の研修ともこのままの内容で来年度も実施することで、よろしくをお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて2点目、令和8年度からの研修資料の持参方法について。 ・初任者研修および現任研修では、演習ノートや課題ガイダンスを原則として印刷し持参するよう受講者へ依頼してきたが、今後もこれを必須とする必要があ

	<p>るかどうか意見をいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> このような提案をする背景としては、今年度から、国研修では資料の購入が不要となり、資料をデータで配布・持参できるようになったことや、ペーパーレス化の流れを背景に、受講者から「データで持参したい」という要望が増えていることがある。 一方で、紙資料の持参を必須としてきた理由としては、演習時に書き込みを行うワークが多いこと、パソコンやタブレットの使用により、研修に集中できない受講者が一定数いることが挙げられる。 なお、主任研修は資料がパワーポイント形式であるため、これまでもデータでの持参を可としていた。また、要配慮者についてもパソコンやタブレットでの持参を認めている。 現任・初任者研修においても、デジタルで持参しても、書き込みができるような受講者は良いが、そうでない受講者も一定数存在する状況であり、今後どのように取り扱うべきか意見をお聞きたい。
稲垣副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 受講者の中には演習ノートを四分の一サイズに縮小して持参する方がいて、ほかの受講者に迷惑がかかることもあったため、A4 サイズで印刷して持参することが望ましいと思う。 国研修では各テーブルに二つのコンセントが用意され、その環境が整って初めて電子媒体での閲覧が可能となっていたが、そうでないと電源切れで見られなくなるなどのトラブルが必ず発生し得ると。 また、要配慮者でパソコンを使用する受講者の中には、研修内容と異なる作業を行う例も見受けられ、事務局が繰り返し注意を促す場面が多く、周囲の集中を妨げる状況もあったため、これらを踏まえ、検討が必要と思う。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> 時代を考えると電子化もありと思う。ただし、適当な態度の受講者が出ないよう、ペンなど書き込めるものが持参できる場合に限る等、決め事をした上でということになると思う。
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> 主任研修では、テキストはすべてパワーポイントであるため、データで閲覧してよい。ただし、ワークシートとして使用するものについてはワークシート集を作成し、必ず印刷して持参するよう案内する予定。 初任者研修・現任研修について、タブレットやパソコン上で作成したものは共有が難しい面がある。資料の閲覧は電子でも問題ないが、ワークシートについては手書きで作成し、視覚的に確認できる形にしておくことが望ましいと思う。 国研修では全員分の電源が確保されており、紙資料を持参する受講者はほとんどいなかった。同様の環境を確保しない中で、電子化を許可してよいかについては疑問が残る。これらの課題が解決できるのであれば、ワークシートは印刷して使用することを明確に定義しつつ、資料の閲覧は電子化で問題ないのではないか。
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> 神作委員の意見と同様に、現状では必要なものは紙ベースとするのが限界かと

	<p>思う。一方で、申出を必要とする合理的配慮については、今後を見据えて制限を設けず、受講者それぞれの特性に合わせて自身の課題を共有したり、その場で作業できる環境を整える必要があると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただし、紙以外の方法ではホワイトボードに貼れない等の制約が生じるため、閲覧用の資料はデータで問題ないものの、その点も踏まえて今後のあり方を検討する必要があるのではないか。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に研修を実施する際の設備面に関わるが、電源の用意等どうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・電源の用意は、現状では全員分を用意することは難しいと考えている。その状況でデータでの持参を可とするかどうかは、今日のご意見をふまえ、事務局で検討し、方針を決めたい。 ・続いて、3点目の内容に移る。 ・相談支援従事者研修検討会の部会設置についての報告をしたい。 相談支援従事者研修検討会の要綱について一部改正を行った。 ・資料3の裏面の第9（部会）が新たな内容となる。これまで相談支援従事者研修検討会では、部会設置に関する規定はなかったが、検討会だけでは具体的な内容に関する検討がしきれない場合もあるため、設置要綱に部会を設けることを「できる規定」として新たに盛り込んだ次第。 ・記載内容を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 第9 検討会は、特定の事項について検討を行うため、部会を置くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> 2 設置する部会の名称、人数等は事務局会議で調整のうえ、委員長が決定する。 3 各部会の部会員は、委員及び障害福祉関係機関等から推薦された協力員のうちから、それぞれ委員長が指名する。 4 各部会に部会長及び副部会長を置き、部会員の互選により定める。 ・今回、この要綱改正を受け、年度途中ではあるが部会を設置したいと考えている。相談支援従事者研修は国が主催する指導者養成研修で毎年示される研修の方針に従って研修内容を更新する必要がある。また、令和9年度から新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた初任者研修へのサポーターの再導入を予定していることから、当事者参画を意識した研修内容、プログラム、教材の検討が求められている。サポーターの再導入を国のカリキュラムに沿った形で実施するには、年4回開催している研修検討会だけでは議論し切れない課題別・研修別の会議を設ける必要があると考えている。これらの理由により、令和7年度及び令和8年度の検討会では、これまでも課題別・研修別に行ってきたチームでの会議を部会として位置づけ、当事者参画を意識した研修づくりについて検討していきたいと考えている。 ・具体的な部会名や部会員については、検討会終了後、皆様に相談させていただきたい。

吉川委員長	・ありがとうございます。ただいまの事項について意見や質問はあるか。
各委員	(意見なし)

(4) 各検討チームの話し合い

吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 各検討チームの話し合いに移る。次回の検討会までの間に必要な取組等について、チームごとに話し合いをお願いしたい。
	(グループ討論)
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 各チームリーダーから報告をお願いする。まずは、内容整理チームからお願いしたい。
高江洲副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 内容整理チームでは、地域資源調べの資料について、令和7年度の現任研修以降の進め方を協議した。主任研修での使用欄については、蛭川副委員長の「見通せる」という視点をキーワードとし、令和8年度の現任研修で変更する場合、これまでの様式を活用して「令和6年度版」と位置づけて示す方法、または今年度の主任研修で作成された項目のうち、見通しを示せるものをいくつか選び内容を入れ替える方法を検討した。 また、網かけ部分をすべて削除し、初任者研修・現任研修の受講者には見通す余裕がない可能性があることから、全項目を削り、その代わりに見通しを示す短いメッセージを挿入する案についても検討し、これが最もスムーズで有力な案として挙げられた。 ②の資料については検討ができなかったため、目的・タイミング・伝え方などを今後内容整理チームで検討していきたい。
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 何か質問等あるか。
各委員	(質問・意見なし)
吉川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 次は、人材育成チームに報告をお願いしたい。
稲垣副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成チームでは、まず、ファシリテーターが目指すレベルについて検討した。ワークの目的理解および獲得目標の確認を、ファシリテーター説明会で改めて丁寧に行う必要があるとの意見があり、まずは目標を十分に理解した上でファシリテーターとして臨んでもらう必要があるということになった。 また、経験の長いファシリテーターのスキル向上については難しさがあるが、まずは、今年度は現任チームが作成したファシリテーター説明会用の追加スライドを、今後は人材育成チームで作成し、現任チームに使用してもらう形ををしたい。ファシリテーションスキルについては、演習指導者養成研修のスライドを参考にしたが、4つのスキルが難しいため、より理解しやすい資料を作成したい。 さらに、現任研修や初任者研修で初めてファシリテーターを担う方や上達したいと思っている方、また経験の長いファシリテーターに対して、他のファシリテーターの実践を見学できる機会が広がると良いと思っている。

吉川委員長	・何か質問等あるか。
各委員	(質問・意見なし)
吉川委員長	・次にサポーターチームからお願いしたい。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーターチームでは、サポーターの導入日は異論がなかったため3日目としたい。参加の範囲を半日とするか全日とするかについては、事務局の負担を増やさないことも念頭に置きつつ、サポーターの存在が受講者に印象づけられ、かつ活躍しやすい方法を考えていく。今後、演習ノートを突き合わせながら、必要に応じてカリキュラムの一部改定を相談する可能性がある。 ・そのために、まずは、初任者研修終了後に実施するファシリテーター向けアンケートにサポーター導入に関する設問を盛り込むこととした。アンケートでは、ファシリテーターが関わる人の中で研修に参加できそうなサポーター候補の有無、推薦したい当事者の有無、サポーター導入にあたっての不安要素などを尋ね、その結果を踏まえ、今後さらに検討を進めることとした。
吉川委員長	・何か質問等あるか。
各委員	(質問・意見なし)

(5) その他

吉川委員長	・その他について、何かあるか。
各委員	(意見なし)

3 閉会

吉川委員長	・ありがとうございました。事務局へお返すする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・吉川委員長、皆様、ありがとうございました。 ・本日の検討会の議事録の要旨については、メーリングリストで確認をするので、協力をお願いしたい。 ・次回第4回検討会は、令和8年3月9日月曜日の午後2時から4時まで。会場は、本日と同じ心障センターの研修室となる。 ・以上となる。検討会のご参加、ありがとうございました。お疲れさまでした。